

清新中学校だより 清風

令和4年8月25日
第198号

感謝の思いを社会に返す

校長 江戸谷 智章

あるチョコレート会社が実施した「ありがとう」に関するアンケート結果がネット上に公開されていました（注1）。その一つに、「ありがとうをどうやって相手に伝えているか」という質問を世代別にしたところ、20代の人たちだけが、「直接会って声に出して感謝を伝える」よりも「メールやLINE、SNSを使ったテキストメッセージで感謝を伝える」の方が多いという回答結果が得られたとのことでした。これを見て私自身も、便利さをいいことにメールで感謝を伝えていることが少なからずあるなど自問自答させられました。

ところで皆さんは、北川八郎さんという陶芸家をご存知でしょうか。この方が語る「感謝」についての考え方がとても印象的だったので、この場を借りて紹介したいと思います。



実は私がこの北川さんに興味を持ったのは、彼がとてもユニークな人生を歩んでいることを知ったのがきっかけでした。彼は県内有数の進学校を卒業し大学に入学するも一年足らずで中退し、有名な会社のサラリーマンとして働き出します。しかし、再び人として生きる意味に疑問を感じて、32歳で会社もやめてインドで放浪生活を送ることとなります。そして40歳を過ぎて最後にたどり着いたのが熊本県の阿蘇の地で、現在も高齢でありながら自然の中で自作農業で生活をささえながら、平安時代に行われていた技法を用いて陶器の創作をされています。

この北川さんの著書の中に「返謝（へんしゃ）」というご言葉があります（注2）。この言葉は、彼が創り出した言葉で辞書に載っている言葉ではありません。北川さんはこの「返謝」について次のように語っています。

『ありがたいと思ったら必ず返すことです。同じ喜びを人に与える。やさしさや知恵や助けをもらったら必ず返すことです。私は「返謝」で「感謝」が完成すると思っています』と。

つまり本当にありがたいと思ったら、その感謝の気持ちを、助けてくれた相手はもとより、なんらかの形で社会に返していくことこそがとても大切なことで、そうでないと結局、ただ感謝をもらうだけの独（ひと）りよがりな人生になってしまうと彼は言うのです。

ついぞ私たちは、周りの人から何かを施（ほどこ）されたとき、「ちゃんとお礼を言っていますか」とか「感謝を言葉にしなくてははいけません」など、「ありがとう」を口にすることが大切であると小さい頃から教育されています。しかしともすると、お礼を言いさえすれば物事が完結するような気持ちになってはいないでしょうか。もちろん、人として、見えないところでいろ



んな人たちに支えられていることに気づけず、誰かがやってくれて当たり前、感謝すら口にできないようでは人として考えものです。またさらに、昨今言われている「感謝されたい症候群」の人のように、感謝を強制したり自らの行為を必要以上に周りにひけらかしたりして、感謝を力関係の道具にしてしまうような生き方も。本来の感謝から遠ざかったものであるのは言わずもがなと思います。

人や社会からいただいた優しさや思いやりを、自らの言動を通してその感謝の気持ちを社会に返し、そして、もしもまた「ありがとう」をいただくことができたなら、それをもまた「同じありがとうの気持ち」をもって人や社会に返し続けることができたならば、きっと世の中が感謝の心の連鎖でつながっていくようなそんな気がしています。

（注1）ゴディバ ジャパン株式会社 (<https://godiva-voicecard.jp>)から一部引用

（注2）『繁栄の法則』（北川八郎著 致知出版社）から一部引用

歌は心 新たな歴史を生み出そう

清学祭合唱の部部长 白川 俊成

私は清新中学校に着任して今年で4年目となります。着任当時3年生の担任をしていた私にとって、今でも忘れられない衝撃があります。6時間目が終わり、帰りの会を待っていると、歌声委員の呼びかけが始まりました。すると、クラスのみんなは、教室の後ろに並び始めました。何が始まるのかと思えば、テレビから合唱曲の伴奏が流れ、修学旅行に向けて練習していた「ヒロシマの有る国で」を歌い始めました。クラスが変わって間もないのにも関わらず、自分たちで元気よく、そして楽しそうに歌っている姿に驚かされました。今まで、帰りの会で毎日歌う姿を見たことがなかった私にとって、大きな衝撃でした。また、いつも自分の場所から移動して、気の合う仲間と自由に歌っていた生徒がいたことも、印象に残っています。



清新中学校の合唱の部は、発表会形式です。これまで順位を決定するコンクールしか経験していなかった私にとって、どのような行事になるか、とても気になっていました。また、同じ時期に体育の部の練習を行っていました。私のクラスでは、ジャンピングの練習で、男女の間で問題が起こりました。とても気まずい空気は、合唱の練習にも影響しました。しかし、問題を解決するために、仲間同士で向き合い、思いを伝え合うことで、同じ方向に向かい始めました。そして迎えた合唱の部本番で、自分のクラスの歌声を聞いた私は、思わず感動して泣いてしまいました。その他のクラスも、それぞれの苦難を乗り越え、多くのドラマがあったのだろうと想像できるような、感動の歌声が響き渡りました。そして、合唱の部の最後は、生徒全員で全校合唱曲「空は今」を歌いました。この曲は、平和学習に取り組んでいた清新中学校として、その学習の成果を表現する一つとして選ばれた曲です。全校生徒800人あまりで歌い上げるその歌声は、今でも心から離れません。そんな合唱の部が終わると、ある生徒が「清新中の合唱は変わりました。これから楽しみです。」そう語りました。自分たちや仲間の合唱を楽しみ、お互いに拍手を送り合う。そして、自分たちで新たな歴史を作り上げる。これが清新中の合唱であり、清新中らしさなんだと、感心したことを覚えています。



その3年生が卒業を迎える頃、最後の思い出に、スポーツ大会を行いました。表彰式のあと、卒業式に向けて、外で卒業合唱曲を歌いました。外でありながら、とても大きな声で、素晴らしい歌声だったことを覚えています。しかし、その歌声は卒業式に響くことはありませんでした。夕方のニュースでコロナによる翌週からの全国一斉休校が伝えられたからです。その後、清新中学校ではなかなか十分に歌声活動を行えず、次の3年生も十分に歌うことができずに卒業してしまいました。

昨年、学年行事として、ようやく合唱活動を行うことができました。一生懸命に取り組み、歌う姿に、涙した職員もいました。「歌は心」。歌う姿は人の心を動かします。歌が得意な人も、そうではない人も、1つの目標に向かって共に関わり、一生懸命取り組んだ経験は、きっと人と人を結びつけることや、多くの成長につながると思います。その中で生まれる歌声を、学年を超えて聞きあうことができたとき、また新しい清新中学校の歴史が生まれるのではないかと思います。

8・9月の主な日程

※下記の日程につきましては変更されることもあります。ご了承ください。

令和4年8月 ※月・木は原則諸活動なし

- 25日(木) 2学期始業式
- 26日(金) 午前4時間・昼食なし 諸活動なし
- 29日(月) 午前4時間・昼食なし
小中一貫の日 諸活動なし
- 30日(火) 午前4時間・昼食なし 諸活動なし
- 31日(水) 学習診断試験(全学年) **弁当持参**

9月

- 1日(木) デリバリー給食開始
- 5日(月) 国際教室おはなし会
- 6日(火) 合唱の部学年練習(3年)
授業参観(1年)
- 7日(水) 合唱の部学年練習(2年)
授業参観(2年・ときわぎ級)



- 8日(木) 合唱の部学年練習(1年)
授業参観(3年)
- 13日(火) 体育の部学年練習
- 14日(水) 合唱の部学年リハーサル(2年)
- 16日(金) 合唱の部学年リハーサル(1・3年)
- 19日(月) 敬老の日
- 21日(水) 合唱の部前日OT
- 22日(木) **清学祭合唱の部(市民会館)**
- 23日(金) 秋分の日
- 26日(月) 諸費集金日③
- 27日(火) 清学祭係別会議
- 28日(水) 体育の部全体練習・係別会議
- 29日(木) 清学祭係別会議

